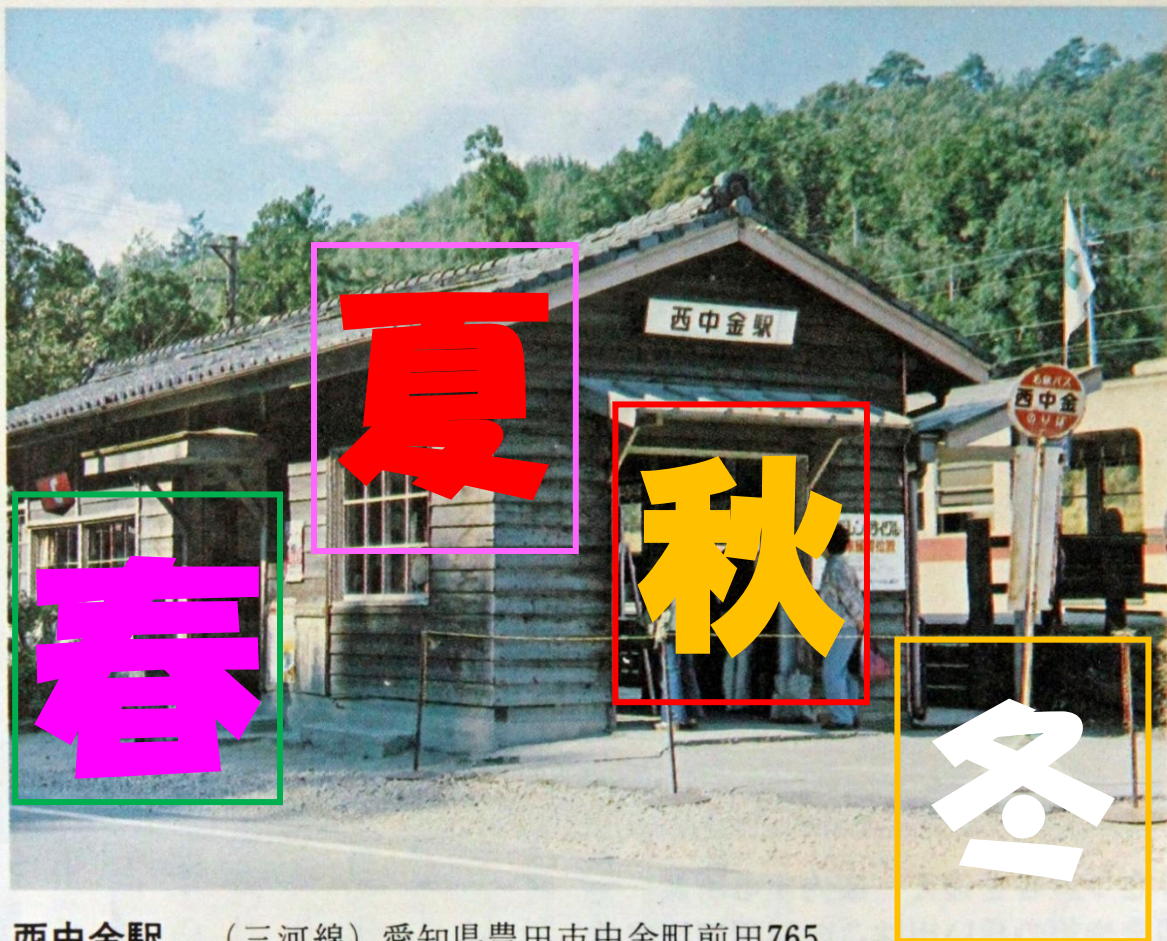


西中金編

# あの日から 20 年

&



**西中金駅** （三河線）愛知県豊田市中金町前田765

昭和3年1月、三河鉄道猿投～西中金間開通に伴い開業。

駅前から、国道153号線を上れば、香嵐溪を中心とする愛知高原国定公園がある。香嵐溪は春は桜、夏は川遊び、秋は紅葉、冬はスケートと四季を通じて行楽客で賑う。また、今年8月に設立した「香嵐溪パブリックゴルフ場」は駅から車で約10分のところにある。

同駅は奥三河地方の拠点駅である。1日の乗降人員約1,000人。

# 目

# 次

あの日とは三河線両末端区間最後の日の事（平成 16(2004)年 3 月 31 日）	1
さようなら L E - Car	1
三河御船の染井吉野	2
枝下～三河御船間の枝垂れ桜の巨木	3
西一色	4
吉良吉田	5
一色排水路	6
三河平坂	7
三河一色	9
ちょっとだけ写真展・思い出を語る会	10
春	11
夏	28
秋	40
冬	54
中金売店…国道 153 号線に歩道新設で 80 年の歴史に幕	63
西中金駅舎曳家・西中金駅舎修繕竣工式	64
西中金ふれあいステーション開催	67
軽トラ市毎月第 2、第 4 土曜日開催	69
日本駄右衛門の顔出し看板	70
生命の宿る木・西中金駅舎は開業時廃車した客車を使用	72
足助線の足跡・幻の橋台・橋脚	75



# あの日とは三河線両末端区間最後の日の事

<平成 16(2004)年 3 月 31 日の事である>



## さようならLE-Car



ホームは黒山の人だかり 1021D列車が進入(折り返し1020D列車の発車式)

さようなら発車式…西中金発1020D列車(10:43発)





# 三河御船の染井吉野

平成 16 年 3 月 31 日







## 猿投～三河御船間の枝垂れ桜の巨木

現役のころから気になっていた枝垂れ桜の大木、LE-car の  
雄姿を入れて撮ろうと最後の日、現場へ行く。  
先着者3名が三脚を据えて場所取り。上下4本を見送ったが、  
依然三脚を構えて動じず、諦めて帰宅する。





駅の東に味浜の氏神・八王子神社があり、駅名も八王子駅で申請したが、大正 15 年 9 月 1 日 何故か味浜駅として開業した。駅舎もプラットホーム（開業時 2 両ホーム）も、赤羽地区にあるのに、何故、味浜駅かと赤羽地区から不平不満が生じたとか。そのためか、開業 1 年後の昭和 2 年 10 月 25 日、駅舎新築を機に西一色駅と駅名を改称している。

駅舎解体…昭和 61 年(1986)



## 西一色

三河鉄道は昭和 4 年 5 月 4 日、西尾町～一色町間に乗合自動車を運行したときに、駅から 400m 東にある県道西尾・一色線に「赤羽根口」という停留所を設置した。この箇所は味浜地区を通り越し、旧大字一色地区にあるのに…。

これは「味浜駅」が誕生したときの経緯から、三河鉄道が赤羽地区の人々に配慮したのではないかと推測しているが…。



三河一色 9 号踏切

## さようなら LE-Car





# 吉良吉田

終日 2 両運転



**LE-Car最後の日…平成16年3月31日**



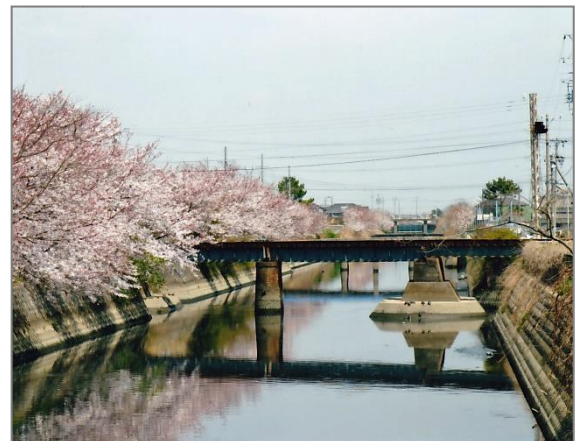




# 一色排水路 (一色悪水路)



左側建物は、一色町役場







# 三河平坂

平成 16 年 3 月 31 日











三河一色







新實 牧野 伴 … … 高須

## 左…ちょっとだけ写真展 右…思い出を語る会

ボランティア団体「夢！応援団」主催で行われた“ちょっとだけ写真展”が18：00から駅舎内に掲出され懐かしい戦前の写真やLEカーが展示された。

21：00から“思い出を語る会”では、三河線に携わった9名(私がトップバッターで、殿が高須先輩)が体験談を駅南広場で発表、最後に「故郷」を約200人で合唱し最終便を迎えた。

満員の旅客を乗せた終列車が10:44到着。ボランティアを代表して稲垣さんが運転士に花束を贈呈。

…ドアが閉まり、気笛一声鳴り響く。車内外から万雷の拍手と歓声いや奇声が暗闇にこだまする。



ボランティア団体「夢！応援団」を代表して、稲垣さんが運転士に花束を贈呈



碧南  
 碧南駅  
 碧山門  
 相澤橋西  
 手塚少将  
 平塚堤前  
 寺津大橋南  
 寺津神社前  
 白 旗  
 一色東松西  
 大塚橋  
 新木原  
 吉良  
 高良西田前  
 吉良高校  
 西尾  
 一色  
 名鉄東部観光バス株式会社

**ふれんどバス開設記念乗車券**  
 吉良高校～碧南駅  
 平成16年4月1日

No. 000375  
**ふれんどバス  
 開設記念乗車券**  
**200円**  
 通用1人1乗車限り  
 名鉄東部観光バス

# ふれんどバス 発車式と試乗会

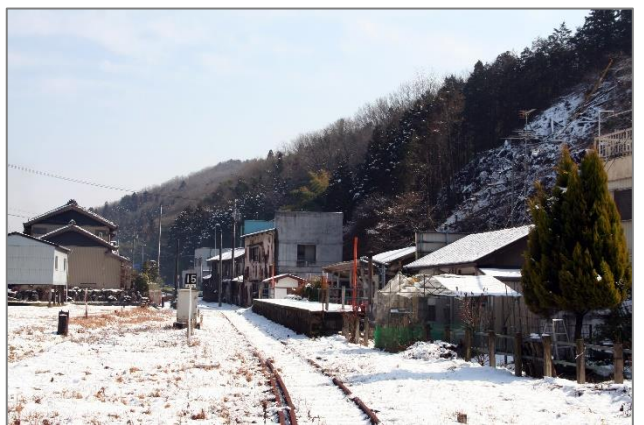
平成16年3月27日







春







駅舎と桜と孟宗竹…平成 17 年 4 月 9 日

# 西中金

西中金は昭和 38 年 4 月 1 日、貨物営業を廃止したが、廃止の直前まで、貨物輸送の積荷は「孟宗竹」だったと記憶している。駅前にも竹が生い茂っていたが、平成 23 年秋に伐採された。



平成 24 年 5 月 19 日









平成 22 年 4 月 3 日



平成 22 年 4 月 3 日



岩倉神社境内から西中金駅跡を臨む…平成 26 年 4 月 3 日





平成 25 年 4 月 4 日

平成 25 年 3 月 30 日







平成 25 年 4 月 4 日





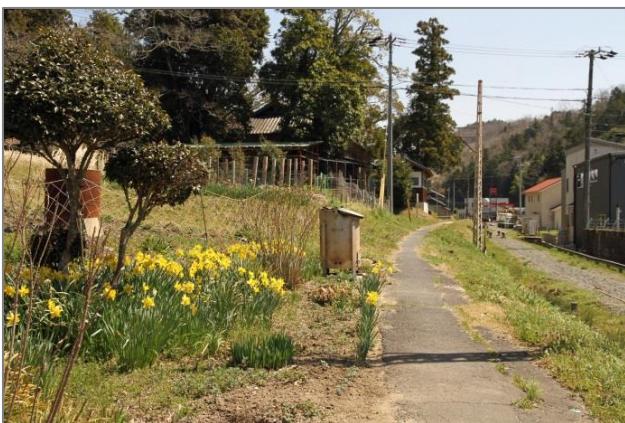
平成 27 年 4 月 12 日







平成 30 年 3 月 30 日







西中金駅舎内吊るし雛でいっぱい…令和5年3月11日



令和5年3月27日





花桃…平成30年4月3日



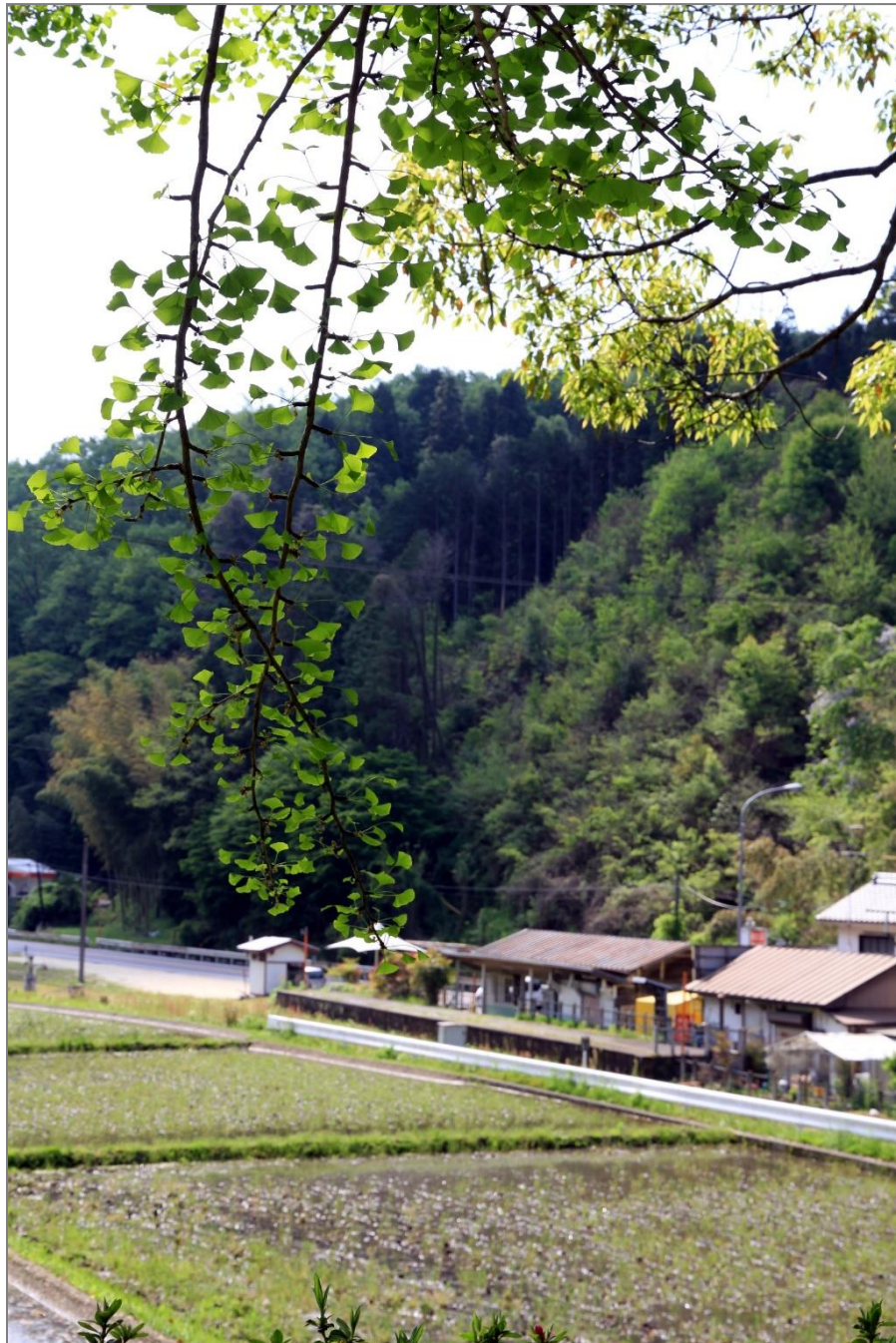




鯉のぼり…平成22年4月21日







平成 23 年 5 月 8 日



平成 20 年 4 月 15 日



平成 23 年 4 月 21 日撮影





目に染みる緑です…平成 23 年 5 月 8 日



平成 18 年 5 月 6 日





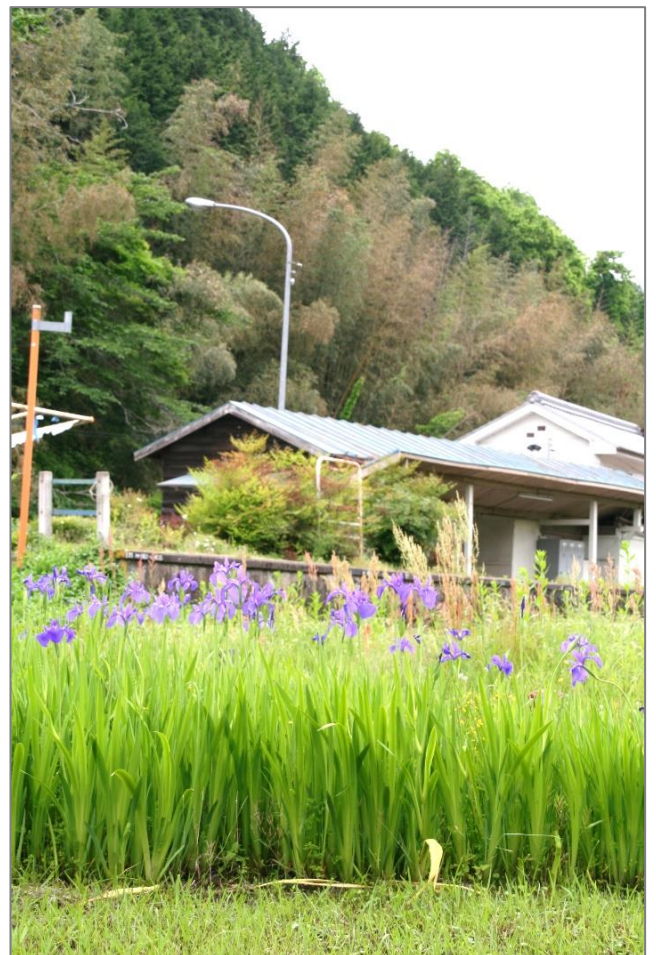
平成 20 年 5 月 12 日







平成 20 年 5 月 12 日



平成 24 年 5 月 19 日

平成 20 年 5 月 12 日





平成 23 年 5 月 8 日





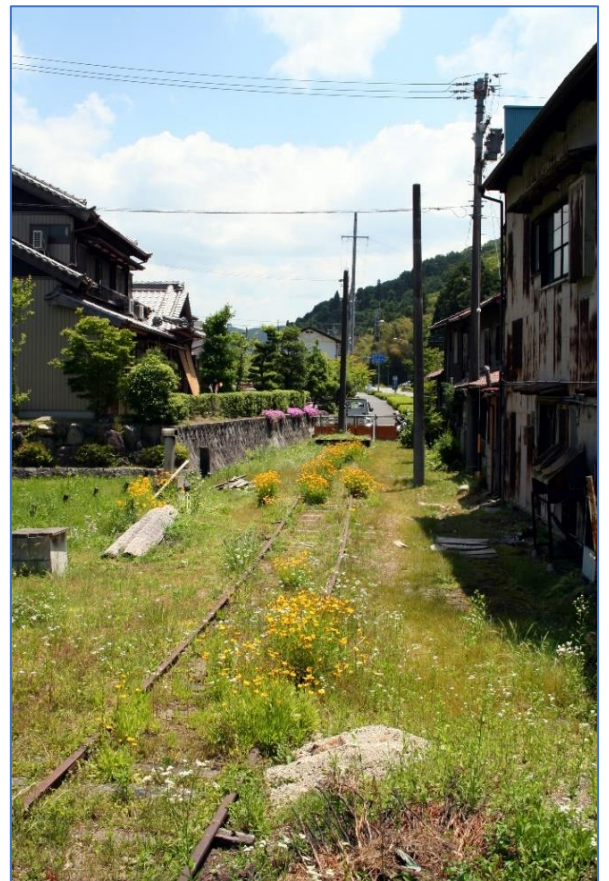
夏







平成 20 年 6 月 4 日







平成 20 年 5 月 21 日



平成 24 年 6 月 4 日





平成 24 年 5 月 30 日



平成 25 年 5 月 25 日



平成 29 年 5 月 27 日





平成 23 年 8 月 29 日



平成 19 年 9 月 4 日





平成 23 年 7 月 23 日



平成 23 年 8 月 29 日



平成 23 年 7 月 23 日





平成 23 年 8 月 29 日



平成 23 年 8 月 29 日



平成 23 年 9 月 6 日





平成 21 年 8 月 11 日







向日葵と鶏頭…平成 21 年 8 月 11 日





さるすべり  
岩倉神社前の百日紅…平成 19 年 8 月 30 日





平成 29 年 8 月 5 日





令和2年8月7日



令和2年9月22日





秋







二番穂(切り取った株から出た芽)の写真が1枚もない。残念！



二度と見ることが出来ない田園風景…平成 25 年 9 月 1 9 日





平成 25 年 9 月 2 8 日



平成 24 年 9 月 29 日





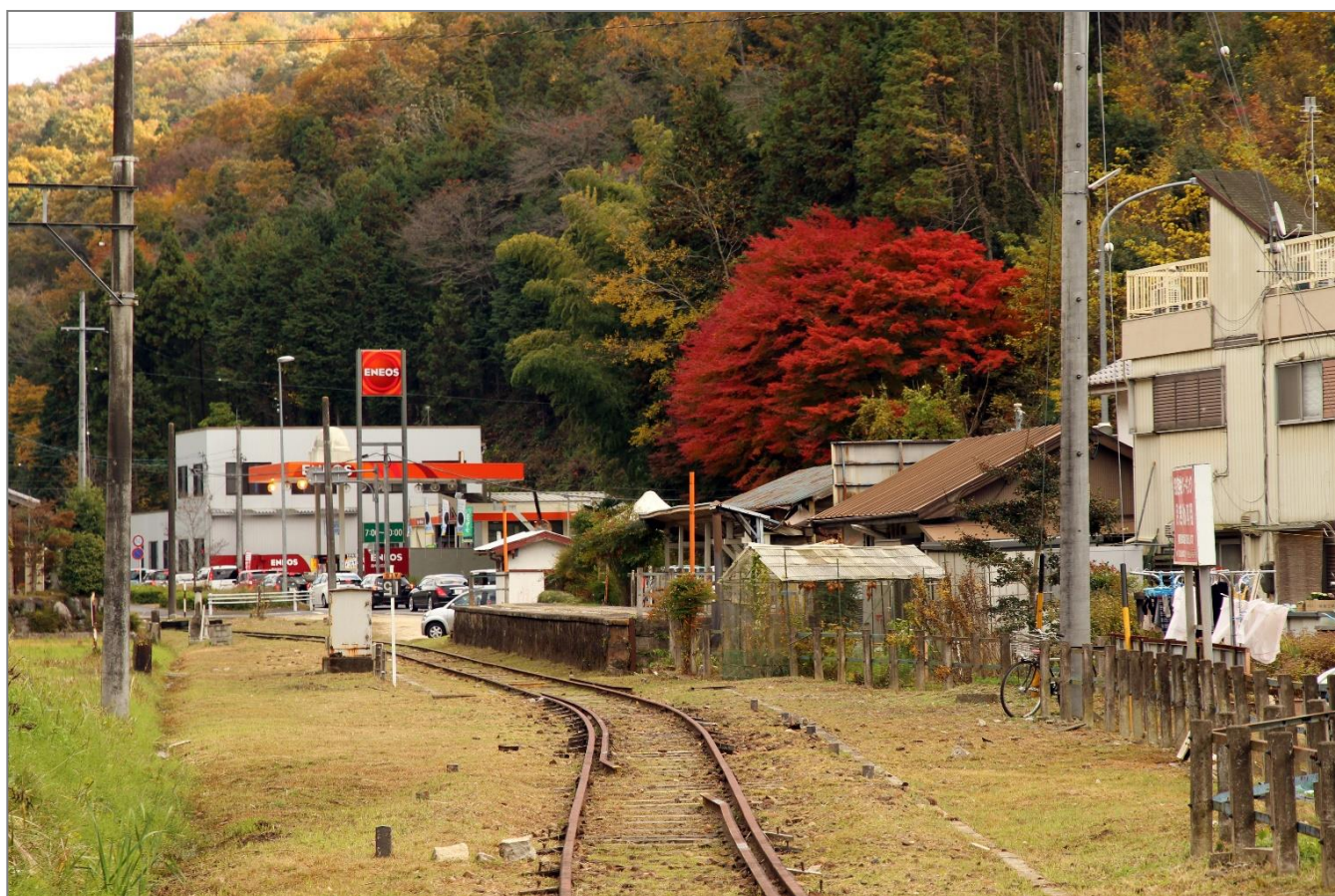
平成 29 年 9 月 24 日







平成 24 年 11 月 18 日



平成 24 年 11 月 18 日





平成 25 年 11 月 9 日







西中金…平成 25 年 11 月 23 日



西中金…平成 25 年 11 月 23 日







平成 23 年 11 月 17 日







平成 23 年 11 月 17 日





西中金足助方…平成 26 年 10 月 26 日 雨

岩倉神社境内の銀杏…平成 26 年 11 月 19 日











西中金…令和4年10月8日  
西中金の軽トラ市も村社岩倉神社の祭りとダブって駐車場も満員







紅葉の季節です。…平成4年11月26日







9 : 33



9 : 36



9 : 37



9 : 38

# 秋



9 : 39



9 : 40



9 : 41



9 : 41

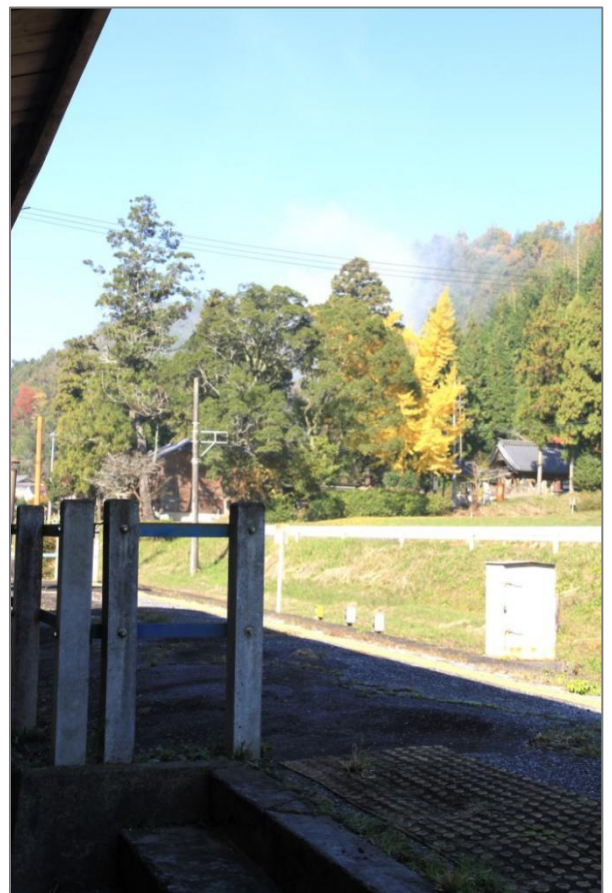
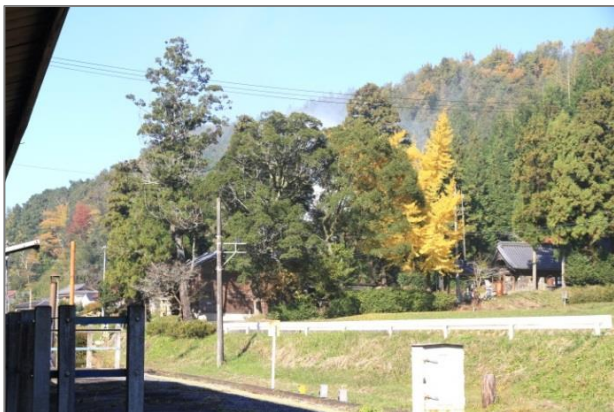
## 摩訶不思議

## 平成22年11月18日 数分間のドラマ?

平成22年11月18日 午前9時35分からドラマが始まる。岩倉神社境内から黄金色に色付いた銀杏を入れて駅舎を撮っていると西中金駅前の国道153号線に煙? いや霞、いや靄、それとも雲か霧が…。立ち込めて…。そして手前に広がり出してきた。駅舎を入れながら何故かシャッターを切り続けた…。岩倉神社から駅舎に戻り振り返り境内を見て驚嘆。岩倉神社の銀杏の木、一帯に雲が立って籠もっていた。  
(注) 写真の時間はデジカメに記録された時間です。



上…9 : 47 下…9 : 47 右…9 : 48







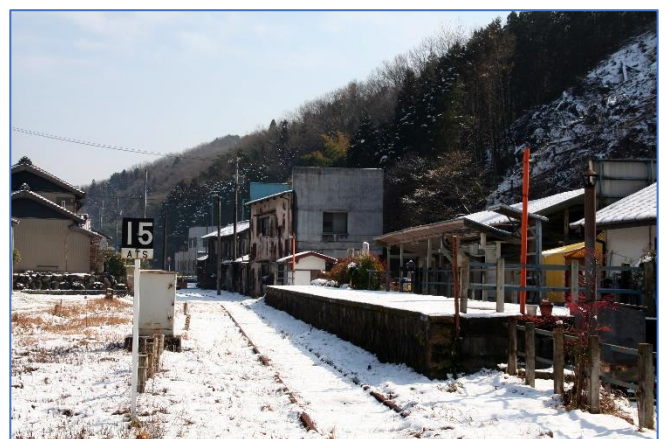
谷







三河線の山線では大雪。名古屋では58年振りの大雪とか…平成17年12月19日撮影







平成 20 年 2 月 10 日



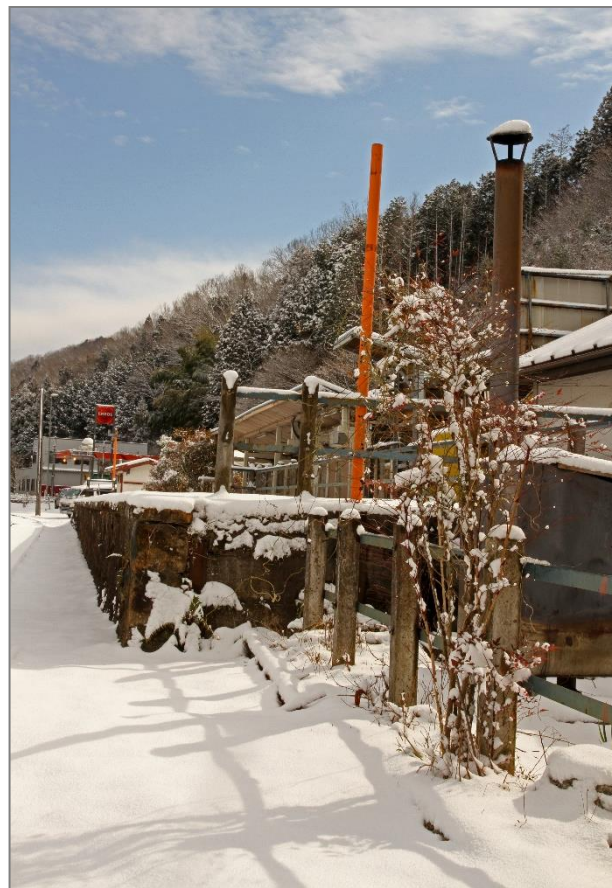




一面白銀の世界を醸し出す…平成24年2月2日







以下、平成 24(2012)年 2 月 2 日撮影















土手で遊ぶ子供らの傑作です。







平成 28 年 1 月 20 日





# 中金売店…国道 153 号線に歩道新設で 80 年の歴史に幕



在りし日の売店と駅舎…平成 24 年 4 月 28 日



平成 26 年 2 月 8 日



平成 26 年 2 月 8 日





# 西中金駅舎曳家…平成 26 年 8 月 3 日



「歩道拡幅工事で駅舎を 2 m ほどホーム側へ曳家した」と「登録有形文化財」の説明板に記してあるが、工事用バリケード(下の写真)の幅(1200mm)から推測すると、曳家幅は、1600 mm 前後？



平成 25 年 9 月 19 日



登録有形文化財…平成 18 年は

平成 19 年 10 月 2 日が正当



駐車場工事

…平成 27 年 7 月 11 日



駅舎修繕工事・「枠はくすんだ色」などと細かく指示されていた…平成 27 年 8 月 5 日



156 号線に歩道新設のため駅舎を北側へ曳家…平成 26 年 9 月 21 日



# 西中金駅舎修繕竣工式

平成 27(2015)年 10 月 17 日



主賓・来賓の挨拶



「テープカット」ハイどうぞの声に合わせて…。





石野子供歌舞伎



演じるは“白波五人男”



中切町「棒の手」保存会・5名が妙技を披露  
一挙手一投足が心を捉える。



# 西中金ふれあいステーション開業…平成27年11月14日



開業時のスタッフ



土曜日・日曜日(10:00~15:00)営業





線路内に細かい碎石が敷かれ、旧踏切の両側に木製のベンチが散策道に設置されていた。また、駅舎の前には「西中金ふれあいステーション」の看板が新設され、ステーション内には吊るし籠が…。

平成 28 年 4 月 2 日

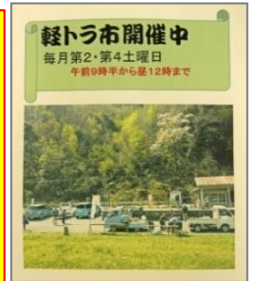


ふれあいステーション内には、季節ごとに飾り物が工夫され、平成 28 年 10 月 15 日、訪れたときには 秋の味覚、柿が吊るされていた。また、五平餅も販売初日なのか注文が殺到。





**軽トラ市…平成 28 年4月9日(土)から  
毎月第 2・第 4 土曜日開催の  
9:30~12:00(4月~12月)**



平成 28 年 7 月 23 日



平成 28 年 8 月 27 日

軽トラ市の看板が変更され目立つようになった…平成 28 年 9 月 24 日







旧・線路とホームへの昇降する階段設置

…平成 28 年 8 月 13 日

ホームの広瀬方に「日本駄右衛門」の顔出し看板が…。  
地元・石野子ども歌舞伎の十八番が「白浪五人男」から、  
日本駄右衛門の顔出し看板にしたのでは…？

平成 28 年 10 月 15 日

## 日本駄右衛門の顔出し看板

(顔ハメ看板、顔抜きパネルともいう)



日本駄右衛門は「白浪五人男」の首領で、日本  
六十余州を荒らしまわった大盗賊。

白浪五人衆とは、日本駄右衛門を首領に、弁天  
小僧菊之助、忠信利平、赤星十三郎、南郷力丸  
の五人のこと。



## 西中金ふれあいステーションの今

西中金ふれあいステーション・スタッフ…平成 29 年 5 月 20&27 日







西中金…令和4年10月8日

西中金の軽トラ市も村社岩倉神社の祭りとダブって駐車場も満員



令和5年9月23日現在



# 生命(いのち)の宿る木



私が此の桜の木に気づいたのは「平成 23 年 7 月 11 日」でした。鳥が運んだのか？ 当初は 7 月でも生き生きしていました。成長するに従い、7 月でも葉を落とす年もありました。

見事に甦った木に心の中で呟く「凄い！生きるって素晴らしい」

奇跡の木です。命の宿る木です。気になる木です。 逞しい木です。生命力のある素晴らしい木です。  
一言で言うと凄い木です。

木柱の架線柱の切断箇所から新しい息吹が誕生…平成 23 年 7 月 11 日



平成 24 年 7 月 30 日



平成 24 年 8 月 12 日



平成 24 年 9 月 22 日

今年の夏は「47 年振り」のエルニーニョ現象とか。「地球の温暖化、未知の領域に」の新聞記事が気になる。

秋でもないのに黄葉が心配

晴天続きで枯れかかて…

残念無念！命尽きたか？





見事に甦った木に心の中で呟く「凄い！生きるって素晴らしい…平成 25 年 5 月 25 日

奇跡の木です。生命の宿る木です。<sup>いのち</sup>気になる木です。逞しい木です。生命力のある木です。



6 月に入ると紅葉しだす…平成 25 年 6 月 16 日



# 西中金駅舎は開業時廃車した客車を使用

西中金駅開業…昭和3年(1928)1月22日 駅舎は2年後の昭和5年(1930)新築されたと記録にある。  
三河広瀬方のホームが法面になっていたのは、構内亘り踏切があった証しでは…。



## 開業時の駅舎位置

(駅舎は廃車の客車)

半分が駅長室

半分が待合室

猿投・枝下・三河広瀬も西

中金も廃車した客車を使用

構内渡り踏切

私が車掌当時(昭和32年)「地元の方から西中金は開業当初、北側が駅舎。駅舎は廃車した客車を使い半分が駅長室で半分が待合室であったという。2年後、南側に今の駅舎が新築された」と聞いたことがある。駅舎が北側にあったから、開業時、広瀬方のホームが法面になっていた証し。

インターネットで豊田市“東広瀬下切自治区”を見ると三河広瀬駅に建物はなく箱形電車が置いてあり…。と記してある。

枝下も猿投も開業当時は、廃車された客車を駅舎代わりに使用していた。枝下の駅舎は当初、廃車した客車を駅舎代用に使っていたと「三河線各駅停車(著者・杉本誠)」に書かれている。

また、猿投駅舎については、名鉄社内報の「れいめい昭和47年(1972)10月号」の裏表紙に「開業時、駅舎はなく、廃車となった客車を駅舎として使っていたという。現在の駅建物は昭和5年ごろ」と記してあった。

平成5年、猿投の駅舎を解体したとき、駅舎棟札が発見された。それによると昭和7年11月6日、井上徳三郎が駅舎を寄贈したことが判明した。



# 足助線の足跡…幻の橋台・橋脚

足助はすべて三河の山の中にある」これは島崎藤村の「夜明け前」を意識して書いたが、盗作と言われればそうかも。足助に鉄道敷設しようとした鉄道会社は三つあった。ご存じでしたか。

先ず「信参鉄道」が明治 33 年 4 月、新川尋常小学校で「信参鉄道創立総会」を開催、ルートは諸説あるが、そのルートは

新川(港)―米津―安城―挙母―足助―津具―飯田―辰野

大浜―新川―安城―挙母―足助―飯田―辰野

大浜―平坂―西尾―安城―挙母―盛岡(昭和 53 年 4 月 1 日足助町と合併)～稲橋～飯田

西尾を通る案は、矢作川を 2 回通過すると費用が莫大となり、案から除外された。このため西尾の財閥から協力が貰えず、資金不足で倒産した大きな原因の一つだったと言われている。

※大正 4 年 11 月 8 日、名古屋地方裁判所から破産宣告を受け、大正 5 年 8 月 17 日に解散した。

次に「岡崎電気軌道」が足助まで軌道でなく鉄道を敷設しようと。先ず、岡崎井田～松平間まで鉄道敷設を申請、大正 11 年 4 月 20 日に認可。大正 13 年 12 月 27 日、岡崎井田～門立まで 8.5 km が開通。大樹寺・百々・岩津・八ッ木、細川・門立の 6 つの駅が営業開始した。この線を郡部線と呼んだ。だが、大正末期になるとバス事業者が次々を開業した。岡崎でも例外なくバス事業者の乱立と郡部線の負債で経営が悪化。

三河鉄道と愛知電気鉄道の両社から合併の打診があったが、何故か昭和 2 年 4 月 16 日、三河鉄道と合併したことで、以後の郡部線の延長が立ち消えた。

三河鉄道は同年 9 月 11 日、新三河鉄道にも経営参加し、三河鉄道 2 代目神谷傳兵衛社長が筆頭株主となり、新三河鉄道の社長に就任。昭和 4 年 12 月 18 日、上挙母～三河岩脇間 6.4 km が開通、と同時に三河岩脇～大樹寺間を 1500V に昇圧し、上挙母～大樹寺間が結ばれた。この上挙母～岡崎井田間を岡崎線と命名された。岡崎井田で用地を探したが用地見つからず、岡崎井田～大樹寺間は鉄道線であるが、岡崎市内線のチンチン電車を運行し大樹寺で挙母行きに乗り換えた。これで岡崎～挙母間のルートが確立した。

(注) 昭和 16 年 6 月 1 日 名古屋鉄道と三河鉄道が合併。昭和 23 年 5 月 16 日の岡崎線が挙母線に線名改称した。大樹寺乗り換えで岡崎市内線が結ばれた。

岡崎・挙母・名古屋が 1 本の線で結ばれる目途がたった。岡崎～挙母～名古屋を結ぶ線が見えてきたが、紆余曲折があり、それから 50 年後、豊田線として陽の目を見た。

その時は、名古屋鉄道になっていたため、岡崎・挙母・名古屋ではなく、豊田・名古屋・犬山が 1 本の線で結ばれ、観光路線に変化していった。

三河鉄道は、大正 14 年 10 月 8 日、西中金から足助まで 7.4km 延長の起工式を猿投駅で挙行。昭和 3 年 1 月 22 日、西中金まで開通。西中金～井ノ口(追分)間 5.0 km の用地を買収し、昭和 4 年 2 月 10 日、建設工事着手、架道橋や路盤造りの工事を開始したが、追分～足助間の用地買収が難航した。折りからの昭和恐慌で工事施工の延期を繰り返した。名古屋鉄道と合併後も工事は引き継がれたが、



昭和 33 年 6 月 27 日、鉄道起業廃止となった。

追分までの路盤後は現在、生活道路や農道化した。153 号線西中金方の橋台や足助方のにあった橋脚は車社会になり道路拡幅で撤去されたが、今でも足助方の橋台は現存している。

### 足助線延長は戦後 2 回、機運が高まったが…。

1 回目は昭和 22 年、足助商工会が中心となって「加茂電鉄」を創立し、西中金～足助間の電車を走らせようとする動きがあったが…。

2 回目は豊田新線の開通をきっかけに、足助延長の要望が再燃し、三河線延長促進会が発足。14 名の代表世話人が地元国会議員(中野史郎氏)を介して国土庁へ陳情書や署名簿が手渡されたが…。いずれも夢と化してしまった。



幻の橋脚後(西中金方から足助方を望む)…ゴルフ倶楽部大樹豊田コース(旧・豊田パブリックゴルフ場)



昭和 42 年 12 月





昭和 42 年 12 月



平成 42 年 12 月



平成 25 年 11 月 9 日

大正 14 年 10 月 8 日、西中金から足助まで 7.0km 延長の起工式を猿投駅で挙。昭和 4 南 2 月 10 日、西中金～井ノ口(追分)間 5.0km 工事着手。架道橋や路盤造りを開始したが、足助までの用地買収が難航、折からの昭和恐慌で工事施工の延期を繰り返した。名古屋鉄道と合併後も工事は引き継がれたが、昭和 33 年 6 月 27 日、鉄道起業廃止となった。



昭和 42 年 12 月



平成 14 年 12 月 3 日



平成 15 年 12 月 11 日



平成 25 年 11 月 9 日





平成 31 年 1 月 12 日

洗面所完成は平成 31 年 2 月 14 日 撮影は平成 31 年 2 月 17 日

